



ナース主義！― 看護師だからできる生き方・考え方

みやこあずさ

宮子あずさ

看護師・著述業

看護師の立場から看護の現状を本音で語る。東京厚生年金病院に22年勤務。経験は内科、精神科、緩和ケアの3病棟。看護師長歴7年。看護師として働きつつ、看護雑誌を中心に文筆活動、講演を行う。研究も含め、テーマは看護師が仕事の意味を味わいながら、息長く働ける状況づくりである。

■職歴・経歴

1963年 東京・杉並生まれ。都立大泉高校卒業。

1983年 明治大学文学部文学科日本文学専攻中退。

1987年 東京厚生年金看護専門学校卒業。

1987年から2009年3月まで、東京厚生年金病院に22年勤務。

経験は内科、精神科、緩和ケアの3病棟。看護師長歴7年。

また、在職中から、大学通信教育で学び、短期大学1校、大学2校、大学院1校を卒業。

経営情報学士(産能大学)、造形学士(武蔵野美術大学)、教育学修士(明星大学)を取得。

2013年 東京女子医科大学大学院看護学研究科博士後期課程修了。博士(看護学)。博士論文「看護師の実存から探る看護の本質と、それを職業として生きる意味」。

■主な著書

『両親の送り方―死にゆく親とどうつきあうか』(さくら舎, 2016/8)

『訪問看護師が見つめた人間が老いて死ぬということ』(海竜社, 2015/9)

『看護師という生き方』(ちくまプリマー新書, 2013/9)

『お世話する人・される人がラクになる介護』(PHP研究所, 2013/9)

『主任・リーダーになったら読む本―看護師の渡世術77編』(日総研出版)

『看護師専用お悩み外来』(医学書院)

『ナース主義！』(集英社文庫)

『ナースな言葉』(集英社文庫)

『人生に必要なことはぜんぶ看護に学んだ―宮子あずさのサイキア・トリップ』(医学書院)

『気持ちのいい看護』(医学書院)

『看護師が見つめた人間が病むということ』

『患者さんのやわらかい見方1・2・3』(日本看護協会出版会)

『35歳は強気ときどき弱気』(幻冬舎文庫)

『元気が出る看護論』(日本看護協会出版会)

『看護師が見つめた人間が死ぬということ』(海竜社・講談社文庫)

『続・看護師が見つめた人間が死ぬということ』(海竜社)

『看護師泣き笑いの話』(講談社文庫)

『看護師だからできることⅠ・Ⅱ・Ⅲ』(リヨン社・集英社文庫)